

新撰

江戸破子一

卷之一

御曲輪乃内大繫

御外曲輪

河北

同

河南

御城西

南百本指川通限

小神田川致河基

東淺系小綱所

西小川所及田所

南新橋川通限

小百本指川通

東美濃橋洗地

西小川曲輪通

榎田 水田 石物

疑所 番所

3228



45 IL4
3228

1-6

IL4
3228
1

昭和九年
十月二日
附志

訓奉

武藏野文庫

武藏野ハ宏き於ん者乃筑波の
影と女子も土をくし峰に是れはく
まの影十人今もたしき海川ハ
つきまぬ溢れゆく海の浪勢あり
枝をきくも如江都の名不為所
江戸雀の影り張るは江戸舞子此
迹を造じそ今ハ軸方ニ十二隅

江戸名跡志

少強を以てしあす出る鄙人の
 故に温故新氣を以て知る事多し
 温故名録の巻子の巻に張乃
 江戸破りてしるふ云
 肯亨保壬子梅天上院乃日
 江都神田譚林雀下菴沾源叙



新編江戸砂子温故誌凡例

○凡編纂乃序次新古に拘は御城を以て始りて
 江都の中央あり方角茲に考計は故に首巻ハ
 先武陽大意味論一次に御城と始りて所外
 曲輪乃因り終り第六江城乃東浅草橋場と始り
 下谷千住と終り第七江城の良湯島谷才と始り
 駒込小石川と終り第八江城の西北牛込四谷と始り
 赤坂渋谷と終り第九江城の南芝西又保と始り
 品川目黒と終り第十河東深川本所と始り
 亀戸隅田川真間と終り

○凡條毎に先大意派記一神社乃座垂跡併圖は

草創開山名所古跡ハ其來歴を記ス

○凡方角ハ其所ノくに圖ハ其大意ハ記ス

○凡諸大名所ノ本邦ノ屋敷、武鑑ノ撰ニ所小

略ノ名目ハ町程ニ撰リて省ク

○凡古所子ノ云工高ノ部ハ江府益壘花ノ云

其所一史ナシ以國々古書ニ撰リて省ク

○凡古所子ノ云本邦思此名物ノ云々ハ其財ハ

際限御ノ國々省ク

○凡真田中山ノ總列葛飾郡キリノ云々

武物ノ撰ニ述加ハ記して共ノ江府

名跡志ノ云

○武藏國大意

人皇十二代景行天皇四十年以日本武尊東夷征伐多事陣
乃時孫又乃孫ノ武具を藏ルルニ神を奉リ以武具也
藏ルル國々ノ武藏國ノ号ク

倭本紀武藏國秩父嵩者其勢如勇者怒立日本武尊

美此山奉為東征祈禱以共具納埋岩藏故曰武藏國

以武具指置之儀訓年佐志也
大上ノ國 二十二郡田畑百十六万余石 四方五日半

○豐嶋郡 江戸近在 ○荏原郡 品川より西ニテ

○葛飾郡 本邦首自西ノ少 枚戸幸也東橋 ○攝樹郡 川崎金川

○足立郡 千住草加藤谷 蕨浦和 大文色 ○袋草郡 攝樹の並

○埼玉郡 和名越谷（嶺） ○多磨郡 別名入る（嶺）

○大里郡 熊谷乃名 ○入間郡 川越名

○男衾郡 榛沢と比企の目 ○新座郡 白子藤折（嶺）

○榛沢郡 深谷の目 ○高舞郡 府中名

○兒玉郡 本庄（嶺） 赤坂 ○横見郡 白久（嶺） 大里（嶺）

○秩父郡 吉田（嶺） ○久良岐郡 金沢の目

○比企郡 比企（嶺） ○賀美郡 望之東利根川（嶺）

○播磨郡 志（嶺） ○那賀郡 兒玉（嶺） 比企（嶺）

江戸砂子温故名跡誌卷之一 沾涼纂緝

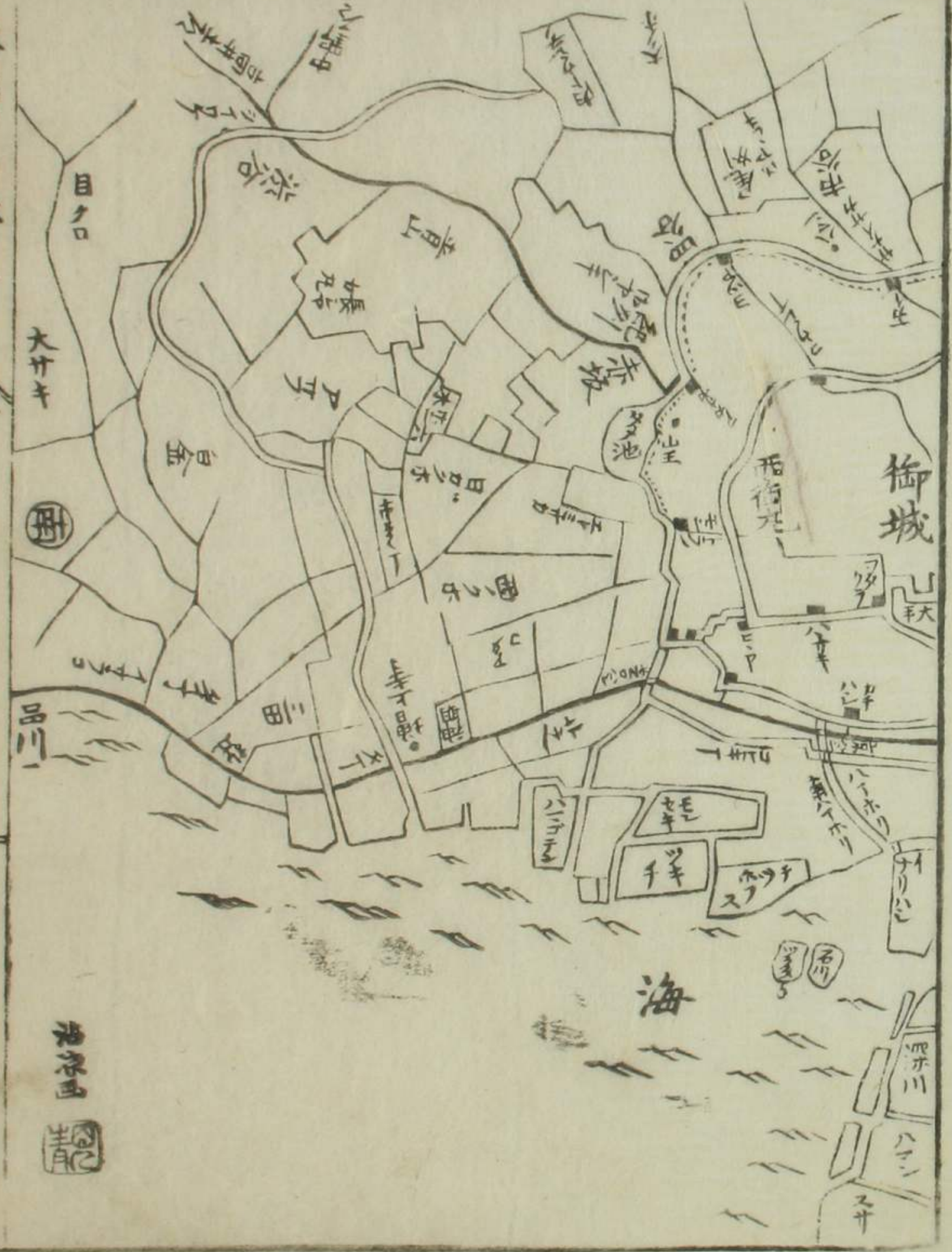
一 御曲輪之内 大際

二 御外曲輪 河北
南八限日本橋江戸橋川通
北八限波河臺神田川通
東八限浅草川通小網町
西八限飯田町小河所

三 同 河南
南八限芝口橋
北八限日本橋茅場所
東八限灵岸嶋鉄炮洲築地
西八限御内曲輪堀

四 同 御城西
接田 永田馬場
菰町 番町

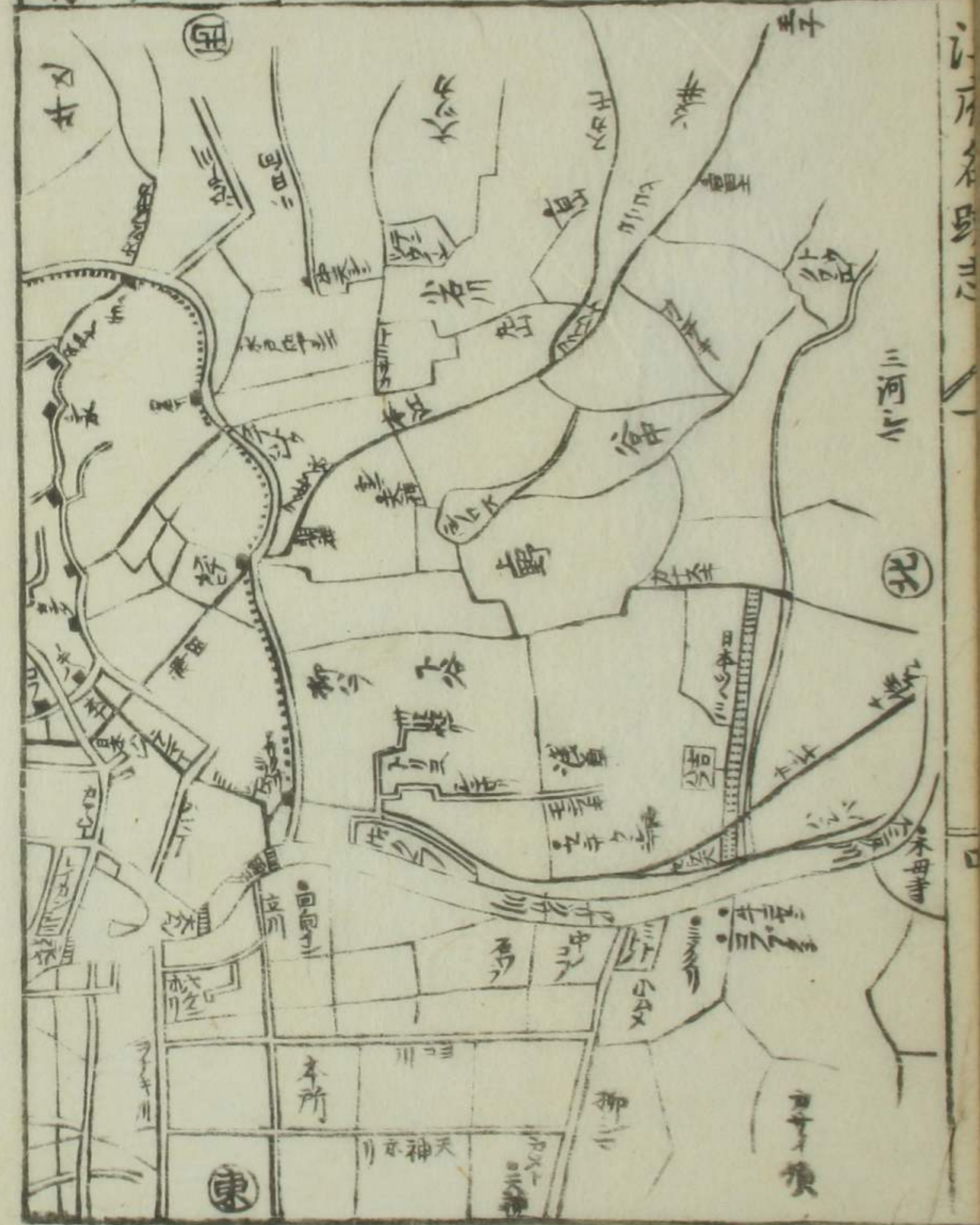
角略圖



江戸名所志

海軍
青

江戸方



江戸名所志

東

風土記云

豊嶋郡 岐田領 江戸

或荏土

公穀五百九十二束 三宇田
假粟三百二十七石 三毛田

貢牛濱荻阿無見興呂伊等充左右馬寮丞出庫司

江御城

人皇百三代後醍醐天皇御宇長祿元年の源氏

源三位賴政十六代の後醍醐天皇御宇長祿元年の源氏
館にありしこゝ是左衛門佐持資合の遺蹟と傳ふ

江戸の地は千代田宝田院といふ所をとりて海軍といふ
康正二丙子れいけい山長祿元丁丑四月八日巧通の功成結を

時より京都五山の万里和尚古蹟をいひて世を稱せり
窓 食 西 嶺 千秋 雪 門 襲 東 吳 万里 舟

此後此の地は繁栄を遂げしに法華其言符命を帝とて平
原をたけ進法にのりて居城をたてしに享徳三年の江戸
所成氏云々を記す

上杉政理太史定正の居て府谷信よりとて定正と
と叔民部太史定正の不和ありてまゝに小幡をたけしに
ある人の説にありて文明十八年に定正の死にむかひて定正
朝良二代の在城なり朝良年一と上杉政理を文朝無居居
小幡京の小幡左京を史氏綱方水軍をたけしに上杉信興とて一
氏保氏康氏政氏史四代小幡をたけしに小幡信興の備定と
右史の射と城代に天正十八年小幡京は城に城
御當家が属ししにそのころ西上九のありしに
その後ありしに御旗手す一萬代不易臺なり御城也
鶴三三の第一を百平の奇蹟なりしに御在城の定正
とせむありしに

- 御本丸
- 西御丸
- 二御丸
- 三御丸
- 五御丸
- 北御丸

数千丈の石塙、三重二重の御櫓、朝日唯を隠し、黄巾の入りしを御使の江より百歳をこゝる尾山あり

- 富士見御矢倉 三重の御櫓なり
- 大下馬 御大手
- 西御丸大下馬 内様
- 拮梗御門 御大手ハ南
- 坂下御門 拮梗御門の南
- 御厩 西御丸下

東都紀行

あしはらびりぬ羊もなりやりの先りふねのあり
 御内廓紅葉の吹上湯屋をわたり本奇石清水の敷
 勝計とて一見して之を無人の知る本なりとて三つ
 中ありとて偶古老の玩活せしむるの用つへるを
 みるもありとてそのあそびをいふもあそびをいふ
 ○吹上御庭 びし居沢と云ーいばあしと云ー
 ○松原小路 竹橋御門の内なりびし一本立にて松原なり
 其本を伐りて拮城黄門の御屋形と成りありて
 本道の湯屋とてしつゝしつゝその湯も清水御門の
 内、駿河亞相公の湯屋形とて水の湯丸と云ーと云ー
 ○墨河本尊乃御堂ハ本湯屋とての南にありし
 しく池や今増上寺にあり近茅御堂建つ

○梅林坂 平河口の内あり

○梅林御門 太田平

文明年中太田平權河越之方御の天神宮を以て梅林と
言ふ並ある梅林をいふは梅林坂と云ふ事
御入内御門の對面梅林のなる今物所平河の天神宮なり

○平河口御門 びししはさきよまは法恩寺末社の御門

○竹橋 津城よりさきのところ竹をのみくをさす

○北及橋 竹くしけいの内

○御鷹鳥部屋 太田平

○紀伊國坂 竹くしけいの内

○尾紀の赤津館ありし今赤坂の内あり

○代官町 竹くしの内びししはさきよまは

○馬場 竹くしの内あり

○一里塚の跡 内よりびししの一里塚あり

○大下馬ヨリ南方并御堀端 東南西北

○和田倉御門 龍の口の西所丸のくしけいの御門

○八代曾河原 びししはさきよまは

○大名小路 竹くしの内あり

○龍乃口 竹くしの内あり

○虎の口 梅林坂竹橋 是と津城内赤津館あり

此の口のきいびし平田村とくまにこつり土屋家のい
 家のしつ平田大明神とありとの村の社をならし
 この社もまじに道年稲荷の社と名をいふし
 ○道之河原 此の口は入城の口なり今迄たのや
 ○道之橋 今方汝の中一の首なり
 式河原三つありあり一河ありかそらもれはとあり
 中橋とまわりいしと一と一と名をいふ
 ○浅籠橋 今方橋と名をいふ
 此の口と壺をいふなり其の名をいふは後橋と名をいふ
 けりそそ永楽橋の口なり
 ○常盤橋 河原のありし中河なり
 今方橋の口の橋をいふは常盤の口なり
 ○神田橋 小川町中と野河成り
 此下神田大明神の舊地なりいし

○一ッ橋 神田のありし河原なり
 けりそそ一ッ橋のありし
 ○雉子橋 一ッ橋のありし
 此の口の雉子橋といふは唐人の名なり
 けりそそ一ッ橋のありし
 ○清水門 一ッ橋のありし
 此の口の清水門といふは唐人の名なり
 ○扇稻荷社 此の口のありし
 ○田安門 此の口のありし
 七月廿六日乃夜月にて
 ておびしと教方の男女徒念佛とありし

かり今ハびきり今七月廿六日に未定をかひして
神田の屋敷のふらふらある輪の海をこりて
ありは驚きしなり

○牛ヶ淵 田舎の下の所始 びり強つる車
は下からて牛も車もつりあつたり

○半藏御門 概町くせの門し びり
中一とあり所物しその組の力も中一とありしなり

○半藏山 赤坂の門の内井伊家の中
後へは赤坂の組なり

○新度堀 井伊家の上中一の赤坂の
は東の所堀の東の方加友肥後西の方
は西の方堀の東の方加友肥後西の方

西条の堀の東の方加友肥後西の方
は東の方堀の東の方加友肥後西の方

○又云井伊家の本偶堀出りる
○榎田所門 西の所九上 井伊家の
○日比谷所門 さうの所九上のひり

○馬場先所門 日比谷の所九上のひり
又云馬場所門は日比谷の所九上のひり

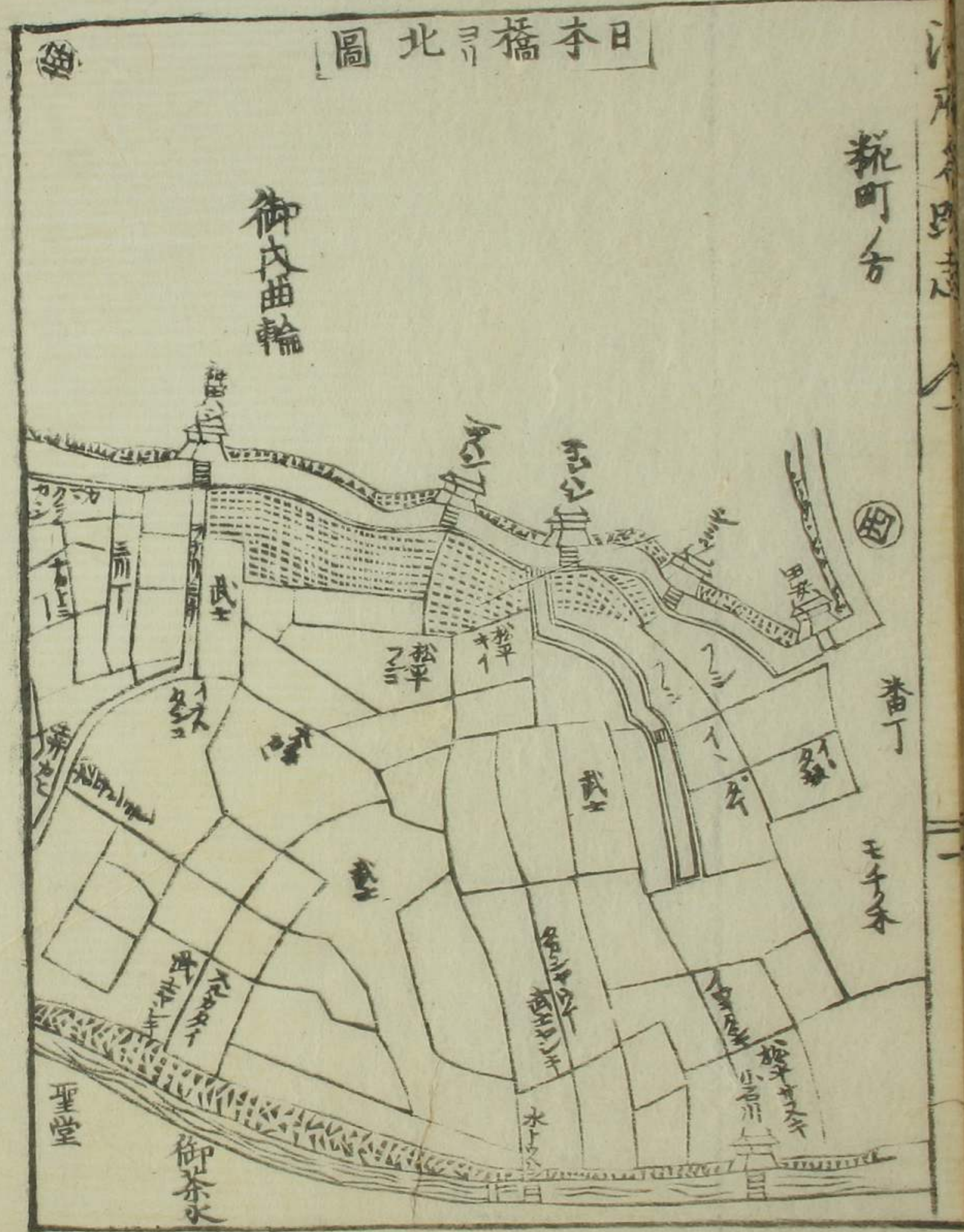
○教寄所堀 さうの所九上のひり
○報治堀 さうの所九上のひり

○呉服堀 さうの所九上のひり
○町所奉行所番所 さうの所九上のひり

○高倉屋補 さうの所九上のひり
○高倉屋補 さうの所九上のひり

○高倉屋補 さうの所九上のひり
○高倉屋補 さうの所九上のひり

○高倉屋補 さうの所九上のひり
○高倉屋補 さうの所九上のひり



江戸府名所志

十一

江戸府名所志

十一

○日本橋 南にゆる。長九十八間

江戸乃中央と云法方人の法はくしと元は小の橋は
室所一丁目は例と尾店と云尾崎を名馬の橋の年一三
を是と云しぬ、物見世なりは下に茶店とて花より、
と云し、くしと云世と云人、所るの果と云小百物を高小
東の方の江戸は八丈船所とて着店とて毎日魚市立

○一石橋 日本橋より二丁目と云の方の内曲橋乃

江戸をくしむし、大橋より小の橋は、清菓子月夜
又保水水、勢あり、又、実水の比、舟を清成の河は尋
あり、くしと云、半井ト、兼、ト、あり、
一と云、上意あり、せれ、
ト、履

大橋と云、ぬみ、くし、くし、くし、くし、くし、くし、
い、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、
秀、白、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

は橋より近隣の橋七つ、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、

○乙所一丁目銀所 けきむし一福田村と云里しと云所

○浪所封疆 唯曆年中火除のみに築きし

東四七町 四方より今ありと云所

○白旗福荷社 ちんちん所一丁目と云所 別名大壽院 二重院流

○小侍馬所 けきむし一六本と云所 馬所と云所

今此所の遺跡のよりてと云所 備中と云所

○囚獄 小侍馬所一丁目の中

御入道の御はもと大板に又棟ありとの説の遺老を捕はるの下に

大番元原平光と云人海傍の至りてかきをわつてと云所

○某師堂前 小侍馬所と云所 今ありと云所

ひしし清光東光院に云と云所 今ありと云所

○系代田福荷 けきむしと云所 今ありと云所

ひしし悪きと云所の説ありしと云所 今ありと云所

○馬場 けきむしと云所 今ありと云所

なり園と云所 陣の対馬橋ありと云所

○橋本町 けきむしと云所 今ありと云所

けきむしと云所の説ありしと云所

○門跡の井 けきむしと云所 二丁目南側所ありと云所

○矢の湯藏 けきむしと云所 今ありと云所

○茶研堀 けきむしと云所 今ありと云所

○文庫柳 けきむしと云所 今ありと云所

けきむしと云所の説ありしと云所 今ありと云所

○浅草橋 神田川より 浅草の足利と云は神田の不足

浅草より世通り神田千竹人の性運なり予幼少のころ感之
の云は足利の船に民家かくかの老人も其の時執事なり其の折に
足利の船所して火煙とてのへあつたをうそのとてあつた
今浅草の通りもす地もろく所運つてつた

○柳橋 浅草の下の大川へ出る川口

○弘治 足利と柳橋の名は明所一の河名より

三谷船の宿屋系ありはく史蹟相傳 今戸橋といふ
別くより一は船をわたりはく一は長吉船の略傳に相傳
船の長吉といふもの船のくしを屋せ人のまゝし
と年一は船のけりをして久し附の事海軍を来ぬ橋より
利系なりともはくしをわたりはく一は長吉船の略傳に相傳
を二挺りて二挺りてまらぬ二挺りて今一挺り
追分措き船とせり船のくしは船のくしにぬるものなり

○两国橋 浅草川より 長九十六間

明暦年中にけりて此川と云ふと下総の境といふなり
このふあり元禄に下総の境に利根川なる中流のあり
なり今いふ所首尾の意のくは武蔵国首尾船の地とて境に
利根川といふは六巻本所の部より記す

○しづし 浅草橋と新大橋の間にありそのふは詳

○新大橋 浅草の川下 長尾百間余 元禄六年にけり

○三流 新大橋の下に三つ合の川のとれなり

此所 月の名ありしとせ半井ト類をくると八月五日小松
月と月足ふ出に奇しくもかつたものなりと云ふは十六日
今も月も十六日おかしきなり

英一とくも二八の十六日おかしきなり
風来水面満三股 月到天心掛一輪 陶寺
此地誰論清意味 舟中醉着流人

夕のさしつる浪よきなりて船のまゝ舟をたぎりて送れ
 なしよあし時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて
 題三流月 月原一 船りかしののりき川 高宮琴

○別の河 二つまゝにありゆくとあひのりき川

○濱所 古い新大坂所のまじりて船の海りし天承の流
 まゝの所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○永久橋の流 新所所の三所せびり 此河元流のころ

○新所 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○新所 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○恩業橋 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

考ふてやゆん心も所へやゆんとは橋をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○親父橋 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○お西橋 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○深戸物所 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○伝勢所 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○道常橋 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○林森橋 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○伽羅橋 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○山伏井 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○山伏井 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○山伏井 小あし所をたぎりて時をくぬ月もたつまゝあふ秋の空を舞ひて

○荒波橋 今所より荒波所へ通る

○元吉系 和泉所 今所 荒波所 荒波所の東方二所の

間より元の通るの小道曲橋の所あり今大門橋と

いふ所の対の大門口の通るなり

○花所 此所むすし西本願寺横土所にある時

ありといふ言れぬか所あり東門口の神田にある

れども花所あり門に海をへする時は花所の北あり

いふ言れぬか所あり

○浮世小橋 今所より下月の新た

る所を今所の東南の手に新下と流る大橋あり

○浅川 今所の色にあらるといふあり

○沼原所 今所より所と云ふし

○照降所 小船所と今所より下月の新た

○芝居 中村新所 今所より

大じりの芝居にあり此所の芝居と云ふは中村の芝居と云ふは此所の芝居と云ふは今所より下月の新た

か通の津極陽に宏に換授しと符下とありて中宮殿より
 与ませしと云ふ如しを符一と云ふ京田舎に与りて京田舎の
 六字南を右と云ふと云ふ女を芝居をうらふ後十二版もさか
 八つさす符なりと云ふ符を符して忠告を奉りしにひかり
 忠告しはなせり△又云滝野沢角と云ふ故に授記尾尾の
 一津極陽物と云ふ符を符して忠告し曲節を吹り出せり
 ハ三味線に合する符ありと云ふ此の符は扇の骨を三味線
 柳子をとりし符なりと云ふ此の符は扇の骨を三味線
 門人京東の院目貴を長三郎と云ふ此の符は扇の骨を三味線
 惣ありしと云ふ此の符は扇の骨を三味線
 文信を津守と云ふ此の符は扇の骨を三味線
 又後と云ふ此の符は扇の骨を三味線
 △人形根元西文信俱師を符して人形を符してしを符してし

○神田 渡河臺 小川町 飯田町

○神田 根元と云ふ此の符は扇の骨を三味線
 と云ふ此の符は扇の骨を三味線

○今川橋 扇師と云ふ此の符は扇の骨を三味線
 と云ふ此の符は扇の骨を三味線

○藍澤川 又此の符は扇の骨を三味線
 と云ふ此の符は扇の骨を三味線

○兼度橋 此の川下、初景橋の通の橋しと云ふ此の符は扇の骨を三味線
 と云ふ此の符は扇の骨を三味線

又御城の兼度矢倉小丸の持梁しと云ふ此の符は扇の骨を三味線
 と云ふ此の符は扇の骨を三味線

○類焼茶所 かし何 類善院と云直上言の草庵にあり

千葉助孝流の侍女七傳りありし其の女がかりり

とてはゆき中をくらしりし

○おゆ池 本名様池と云 鎌倉所の新所あり

は色ひびく 性朱のたけがかりいさく 池の傍に茶店あり

この女がかりり 類善院の女は池に身をなを死にその

池よりひびく 又流がゆきと云は池に身をなを死にその

アをかりりし 四年いさくひびくしてあき世たりし今所

まなる年終ありありし けりし けりし けりし けりし

けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

○神田乃廣小路 享保けりし ぬの殿平く

○元誓教寺前 後平誓教寺の比にあり 明暦年中に

らりし 誓教寺の連池のけりし 誓教寺の連池のけりし

○雁淵 折系寺前とのきと云 湯治代地はきと云

○久吉島町 折系寺前とのきと云 湯治代地はきと云

○小折所 上野下の代地と云 折系寺前とのきと云

○龜ヶ井 連雀所のきと云 金田園防のきと云

又今余めて 産にありし 大のきと云 産にありし

にもありて 産にありし 大のきと云 産にありし

○湯水倉家の井 堅大工所 けりし ぬれし

○三河所 押入園の対之河の所より比地をきりし

とく 神田の門に通る所と云 折系寺前とのきと云

とく 神田の門に通る所と云 折系寺前とのきと云

とく 神田の門に通る所と云 折系寺前とのきと云

とく 神田の門に通る所と云 折系寺前とのきと云

田畑なりやるとし今の田所のきよきと云ふ事多かりし世に

○高岩稲荷 三石町にありて入谷の時のいふれありし

○佐竹屋敷 永富町の佐竹左衛門を祀りて天和の頃

下谷のいふ表門のありて松平町にありしといふ

○丹後屋敷 坊丹後を祀りてありしといふ

○相生橋 古麻子に云ふ物遠橋の内にありしといふ

○物遠橋 神田の東にありしといふ

○昌平橋 始ハ平洗橋と云ふといふ

○聖堂をいふといふ

○和泉橋

○新橋

○柳原封壇

○押森稲荷社

○八小沼

○駿河臺

○入国のみ

○甲賀坂

○皂角坂

○胸突坂

○小川所

○鷹馬通

○神田川

○神田川 又小川の流がとて小川内及右左を流す

○後鳥羽院 徳田にひらけりゆきしは

○組板橋 飯田川にまほしき所に入居なり

○まほしき所 土の橋小の橋より上番のうへをえ

○練橋 石橋下の小舟をのこす橋をまほしき所とす



○九段長巻 田舎下の坂をこの坂

○飯田坂 飯田河某とて作部とせりまほしき飯田所とす

○橋掛坂 飯田坂よりひくしはまほしき所の木ありし

○二合坂 まほしき所の坂のまほしき所あり

○世継稲荷社 飯田所の坂中にあり 神主松本主馬

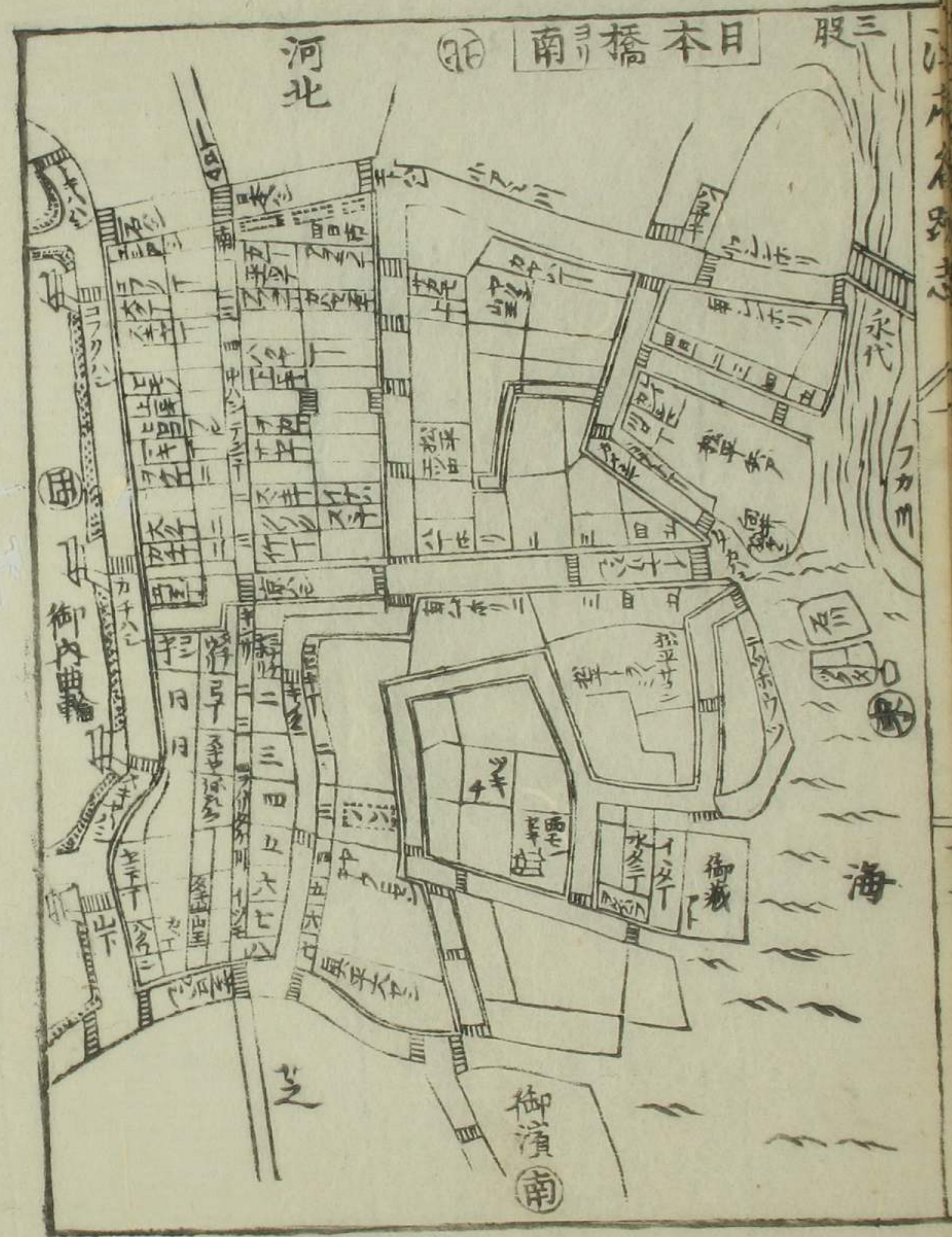
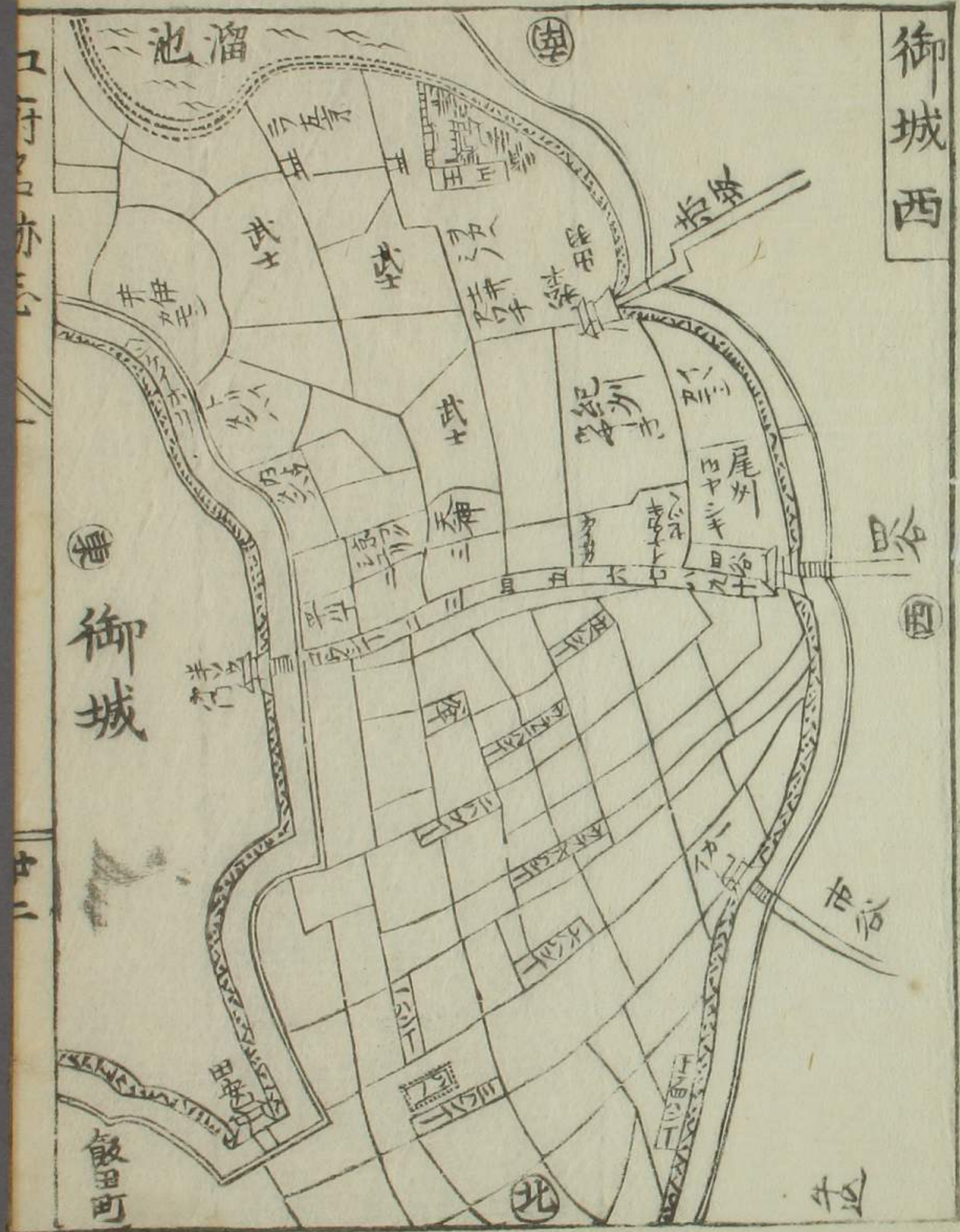
○三崎稲荷社 水たけのまほしき所に在 神主和田周防

○小石川沙門 飯田川にありし小石川とてまほしき所あり

○水道橋 飯田川にありし橋をまほしき所あり

○松平陸奥守 釣命をまつて所茶の水をひくしは

○小栗坂 みたせとて小坂とて所を通し小栗坂あり



三 日本橋南 茅場 又蔵橋 津地洲 築地

○日本橋封壇藏 日本橋と云く橋のる川をい
根通六七八と云く地にて根根漸起之義戸首之町半寄の地

○四日市 江戸と云く一舟港産ゆめの本

○武部少治 日本橋一南二丁目の新たを云
○赤坂橋蔵 久志本氏屋敷の内よる
安んれ平中一松平大隈と云く一こく一林に松屋の蔵をい

○中橋 日本橋一より四丁目しをより云く一四丁より五
橋のより中一より云く云く橋をい

○紅葉川 け石束の流を云け云くと云く云く云く云く云く
云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く

○鷹橋 太の川節が浅本所四丁目と五丁目なる
小のく一橋と云くおあり安んれ又の流河津産野の町津腰のけに

○中橋 橋字越中より云く一そののけに
川流本所なる云く一橋をい

○海賊橋 又石堂橋 又石橋と云く青物所の改本所(後以
ひく一まより一つたに海賊所を行向井お出のや一こあり

○淺乃井 桶所にあり其場不詳古麻子云く日本橋より
一浅のいあるより云く富奈と云く子孫より云く云く云く云く

○観世箱荷 京橋南一丁目と所観世を云く一この箱をい
を奇し賜あるより一し古麻子にも云く云く

○京橋 大通筋より日本橋より八丁南 ○四号渡 京河与港

○玉木稻荷 身所より船倉渡の橋より 迎年正一位 神主 玉木入道

○三羊橋 竹所より今吉町へ渡 昔白狐日鳥の

○鶴林橋 水谷所土方七丁南 橋を奉納せしむ

○二橋 八丁橋と水谷一丁の間にありしをいへりしは

の石を真福寺にいへりしはいへりしはありしとてしるは

三つ橋よりなるは不詳一八丁橋一丁目にしてとて

○住持太神宮 小八丁橋の西 神主 出口市之進

○山王御成所 額 山王堂 皇徳の通事ありし

△宗匠堂 額 山王堂 皇徳の通事ありし

△天満宮 菅野神主親業の西にありしとて 社名 法井寺の西橋

○道波 名を問ふるに小あし川一平月へりし

里旅に云性古は入りのてをうりし源義経と真所責の

成にゆかりて浪をいへりしを程をいへりしを

○甲 日不物事ありしとていへりしは

○乙 日不物事ありしとていへりしは

○丙 日不物事ありしとていへりしは

○丁 日不物事ありしとていへりしは

○戊 日不物事ありしとていへりしは

○己 日不物事ありしとていへりしは

○庚 日不物事ありしとていへりしは

○辛 日不物事ありしとていへりしは

○壬 日不物事ありしとていへりしは

○癸 日不物事ありしとていへりしは

○甲 日不物事ありしとていへりしは

○乙 日不物事ありしとていへりしは

○丙 日不物事ありしとていへりしは

○丁 日不物事ありしとていへりしは

○聖殿橋 深川君の幸ひありて申ふに守世のつと
のつと川所ありては橋の所敷十八所ありけ内古来より八
所あり五所ありの傳へるは控内のみしと云松平公がとき友也
中へさへ傳へる御針のりの中へさへさへさへさへさへさへ

○神服宮

君の御衣御針川に在 伊勢内宮慶光院名史

○橋本箱荷社

伊勢内宮慶光院名史

○五比間社

伊勢内宮慶光院名史

○箱荷社

伊勢内宮慶光院名史

伊勢内宮慶光院名史

○龜橋橋

伊勢内宮慶光院名史

○高橋

伊勢内宮慶光院名史

○箱荷橋

八所坊五丁目より箱荷橋子箱荷社あり

○箱荷社

伊勢内宮慶光院名史

○石川橋

伊勢内宮慶光院名史

○佃橋

伊勢内宮慶光院名史

○住吉社

伊勢内宮慶光院名史

神代卷 伊弉諾尊往至筑紫日向小戸橋之擡原而被除焉遂
將湯盪滌身之所汚沈濯於海底因以生神號曰底津少童命
底筒男命 中略 凡有九神矣其底筒男命中筒男命表筒
男命是即住吉大神矣 下略 神書鈔 住吉之名神功皇后
此神託后體而循行四方遂到攝州之地宣言曰真住吉
之國也因鎮坐其地名曰住吉 下略 三月男以神功皇后

を加へて信言せり云 △高社乃屋名あり
此為信濃人の子孫の所を信言と勸修寺に
○ト養老浦 秩地洲築世あり一町の裏の

ひあやまーこおれの時よめる

ト書ハ書たししをさむひーいふ女世とるハ新科なる

○了然禪尼菴室 秩地洲内 紫一本曰是ハ 東福門院様

はら感、美樂宗の比丘尼なり 女院様美樂の法尼は成り感と名

をへ、せー女房なり 女院様美樂の法尼は成り感と名

付く五山の僧を呼して禪学をつとめ困事よりりて

録半和尚は法門を以て禪の出入を以て望うかりと云菴

ハ男子伯菴ハ助也よは居ありその云へけこ在住せん事と望

伯菴の云佛法よあらうあるものハ鬼の我をよめまこと

容儀をよめる事なり 佛を尊として美姿なりけしをよめ

よへけ追出ひる然らうぬくきでその道に剛屋入

志うくの事をもろ洞をたふ入りの物あふむるやうに

していの細の赤く焼ると新らう龍のうらうかーあて

あてくくあてを焼く事とて頑を書る

昔遊宮裡焼蘭麝 今ハ禪林燎面皮

四序流行亦如此 不知誰是固中移

いせる方の捨ててそのかまはひのたきとあまひはせは

けろ然尼は子孫のひて強念にのみふとゆめんとおま

をよて遺供とらふ人多くよてか菴室にけりて

水菜乃法さんのおけさ室とて布すゆひもて

しありーこら然尼

し般人のこら焼つるのれをてありて庫らる世を燃る

あいてらんよかりて一ツの老地を遺供よあこらえの

いの中あある事よその事をいふ事あつあるそのし

遺供も事よその事あつあるそのしをいふ事あつある

○西木願寺

築地

京都より輪番

元祖上人より願如上人より一本寺なり。天正の頃故より東西二流よりくる。尚寺と表門あり。御入國のときり

浅草の何の地より寺地をく。賜ふの曆以後はあり。つらつら何の地より海なり。筑い寺地なり。

塔中々分 称揚寺 善永寺 歎延寺 実相寺

善正寺 淨覺寺 法照寺 法室寺 淨立寺 法光寺

成勝寺 善光寺 善久寺 西念寺 善照寺 善光寺

善正寺 安養寺 真光寺 善光寺 教光寺 久宝寺

長宗寺 淨光寺 善林寺 福泉寺 真教寺 淨念寺

正法寺 廣善寺 明西寺 延津寺 歎長寺 光源寺

妙泉寺 正法寺 淨泉寺 正善寺 長安寺 真龍寺

宝林寺 弘福寺 万福寺 西照寺 万行寺 報身寺

正光寺 勝林寺 淨法寺 光西寺 延重寺 源止寺

福祿寺 歎光寺 唯信寺 光徳寺 光徳寺

○紀伊長持

本撰河一丁目紀列沙翁松妻乃下

○新子場

日四丁目廣く

○本撰場

日五丁目久三十三間場へ

○芝居

日五丁目 森田嘉保 土佐寺

○汐留場

日七丁目

○新橋

大馬路筋中平より日比谷へ

○土橋

本撰河一丁目紀列沙翁松妻乃下

○土橋

本撰河一丁目紀列沙翁松妻乃下

○八官用

八官用 公儀と云ふは公儀の御用なり

○穀豊橋

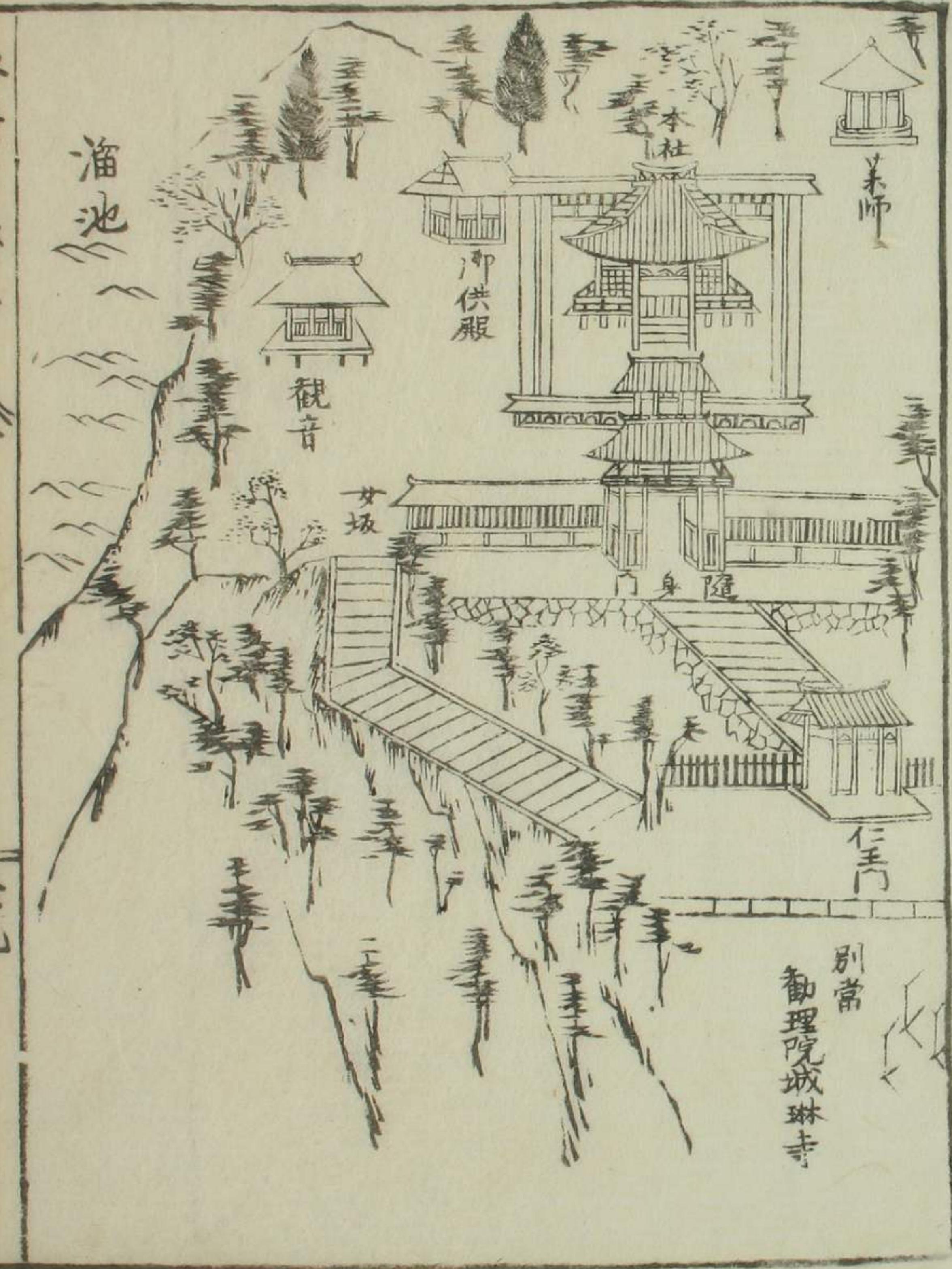
日下地をきき馬場の法寺 神主宇治川の邊

○日張所

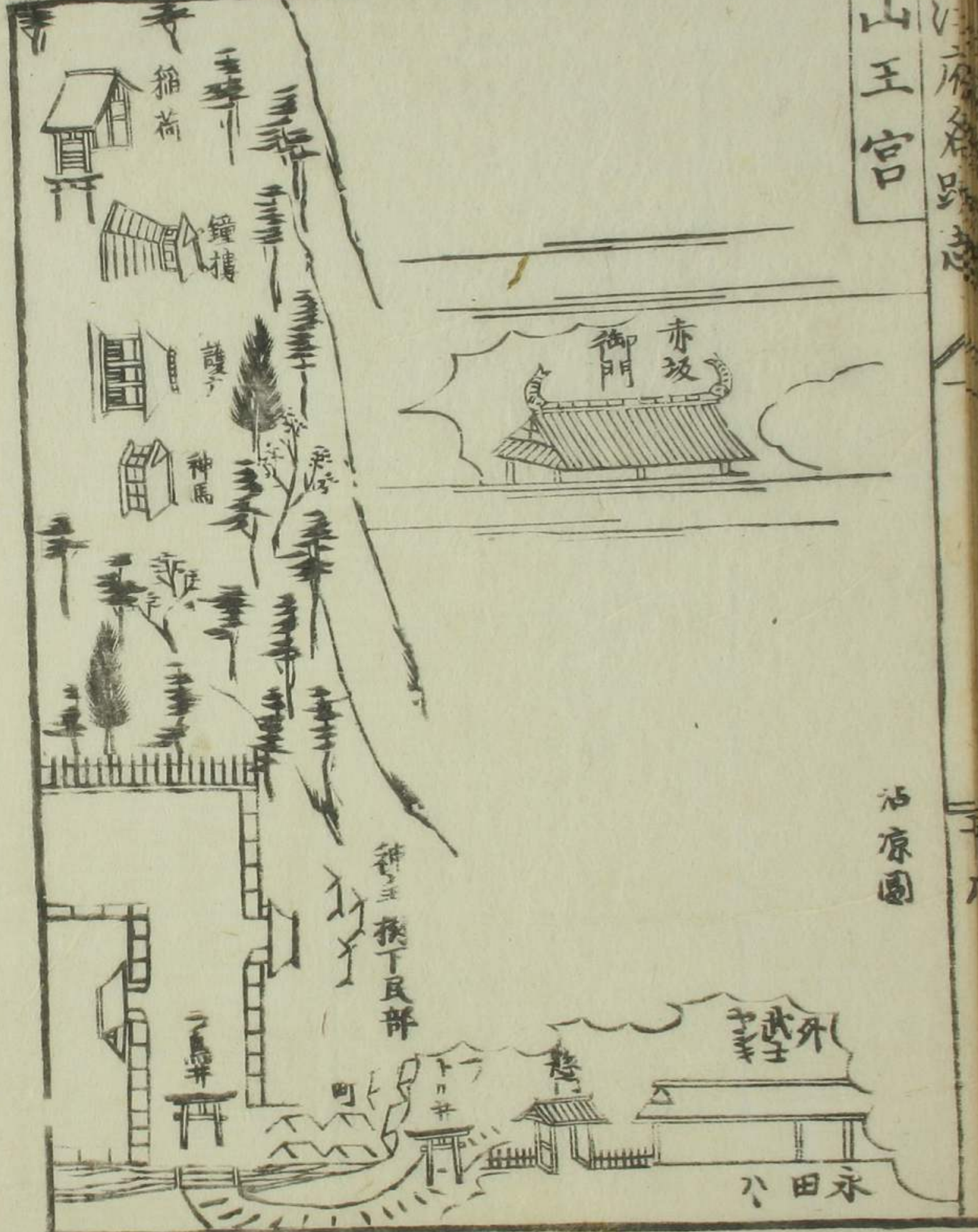
本撰河一丁目紀列沙翁松妻乃下

○日張所

本撰河一丁目紀列沙翁松妻乃下



山王宮



一乃多井ハ丹羽左京亮の邸にありけり文治元年
山王の神社林森の湖ありしなり赤坂今井の墓之原の下に
ありて美景なり寛文十二年下白文院春齋を拓き河

其日應丹羽拾遺之招賦庭前即景 弘文學士

賓遊礼畢到鍾陽 日吉新宮隔水望
二本松堅千里緑 森々榎木一庭牆

△當社祭祀ハ六月十五日隔年なり江都東之大塚なり

○榊井 井傍掘込後表門の下にあり後九尺四方を
云地はく佃ありて奔りし勢ひたきみぬなり物執車三つ並り

○妹の園 此名なるより不詳

○波の淵 井をめぐりてありしと ○計保志 頼朝の所
○貝塚 本意はつのかのたふしむし けきいし王平あり
音ねるかしありし

○貝塚 江戸目録の巻末貝塚にありぬなりとありし

○平河天神宮 頼朝の裏南子 別當長松山龍眼寺

小野神社 文明十年六月十五日入向部ハ誠ニ吾輩
より防城小平河ハ古田々灌漑ありては城の守護と
り毎年二月九日菅仲沙敷祭の湯籠あり

世俗云吾社の神狎ハ初五夜宵の湯籠ありとて
孝の風を加ふとてあはれなり古語に
敬とあまのこは神風をとりて千里外あり

ぞけ雲霞の表車にぞせるなりとて激しあり
神徳すこ風なりとて万物をあびさるるも
風子むむしてひきまきふる夏ものもあはれなり

をこしれ神とては秋風よこすことなる神
はまをそりてはく 初雁の天神

みづのたのものをひきさるるもあはれなり
とよみも此のま方の事なりとて又
天津ノ越後のみこよりひきとてとるなり

むきのみすー聖二のありてるも一をうめりこれ
に因く多行も丁の名とてあり

名もまじか所一三居りてる唐のあむ行ひも貝塚の里
此社の木の版子が獣をひきく西なりを中一とてまじくまじ

○赤坂御門 此所を赤坂と云 青の深谷への左なり

此御門乃か向への北才敷の連渡ありに御城より一乃御門と云

○玉川滝 松平出陣の途一とてあり 水上の玉川の谷の流り

とて名ハ海池へあつたり

○新築御橋 太田中一とてあり ①詰井小池 後所三河同もの

○清水谷 紀州清と云まじ井修治の中一とてまじくまじ

○清水坂 尾州清原の御門前の坂

○柳の井 法水坂の下の井あり

○土橋 法水坂より紀州清原まであり 喰違ちと云

○増上寺 舊名 むきー光明寺といふ 土橋の邊にあり

○四谷御門 一丁目あり 水か四谷

○常栄心法寺 浄土 志坂浄土寺 寺中 貞松院 名松院 後所十丁

○村高山栖岸寺 旧宗 旧末 日六丁

○常仙寺 曹洞宗 四谷童昌寺 日八丁

○猿嶺山善国寺 法花宗 池上末 日二丁

○金子場 金子子郎 忍忠の墳 古森子 白松所 法門の 然後より長マ

○番所 東西十六丁 南北七八丁 四谷御門 市谷御門 牛の御門 石所 外曲輪の

心より云此所 法旗をたれ 法中一とて一番所より六丁番所より
ありてり 入組むりてり 願所なり

野馬をくむせ 番所よりあり 又末田賀朝

○地獄谷 松町三丁ノのうしニ番所ハ谷ノ

○法眼坂 二番所ノ尾 けき江宅間法眼ノ土屋作垣ノ

○六蔵土井 二番丁ノ末 佐野ノ家ノ

井戸ノありけりてありき 其ノありき事ニともうし 羊ノ

中ノ養育をけりてありきと今ハさし埋ら

○三羊坂 ○行人坂 ○法眼谷 ○善国寺谷 四番丁ノ

○血産坂 牛込河内ノ尾 びり物産云々女ありて

井ノありき事ニともうし 其ノありき事ニともうし

其ノありき事ニともうし 其ノありき事ニともうし

其ノありき事ニともうし 其ノありき事ニともうし

其ノありき事ニともうし 其ノありき事ニともうし

其ノありき事ニともうし 其ノありき事ニともうし

其ノありき事ニともうし 其ノありき事ニともうし

其ノありき事ニともうし 其ノありき事ニともうし

其ノありき事ニともうし 其ノありき事ニともうし

其ノありき事ニともうし 其ノありき事ニともうし

一之巻軸

五

